

2014年5月27日(火曜日)の**中日新聞**に **救缶鳥**が紹介されました。

企業備蓄 + 国際援助 + 障害者社会参画

刈谷の防災協 一石三鳥



伍のデザインに採用される3作品—いずれも刈谷市の刈谷商工会議所で

刈谷市の建設会社でつくる刈谷防災まちづくり協議会が、パンの缶詰による国際援助活動「救缶鳥プロジェクト」のオリジナル缶詰を作る。障害者が考案したデザインを商品に生かす全国プロジェクト「だんだんボックス」の活動と連携し、障害者の社会参画と企業の防災備蓄を促す。

(岡村淳司)



審査会で伍のデザインを選ぶ関係者。手前がパンの缶詰の商品

救缶鳥は栃木県のパン製造会社「パン・アキモト」が始めた取り組み。三年の賞味期限がある備蓄用のパンの缶詰を二年で交換し、一年分の賞味期限が残る缶詰を、非政府組織を通じて食料難の国に送る。輸送費などは商品価格に含まれる。

救缶鳥は栃木県のパン製造会社「パン・アキモト」が始めた取り組み。三年の賞味期限がある備蓄用のパンの缶詰を二年で交換し、一年分の賞味期限が残る缶詰を、非政府組織を通じて食料難の国に送る。輸送費などは商品価格に含まれる。

採用作品はカキツバタや万燈祭をあしらった力作。 31 刈谷防災まちづくり協議会 電話0566(22)61

だんだんボックスの活動を応援してきた同協議会が、救缶鳥とのコラボを企画した。市内の企業向けにラベルを変更したオリジナル缶詰を作り、協議会が窓口になって注文を募る。

二十六日に、刈谷商工会議所でオリジナル缶詰のデザイン選考会を開催。市内の知的障害者施設「すぎな作業所」の利用者が刈谷をテーマに描いた五十点の中から、ラベルにする三点を選んだ。

だんだんボックス アートを通じて障害者の自立を支援する活動。刈谷市出身の建築家鶴飼哲矢さんが考案し、2010年から始まった。障害者が段ボールや封筒といった商品のデザインを手掛け、発注した企業が報酬を支払ったり、利益を還元したりする。

デザイン料を協議会が負担する。協議会の鈴木文三郎理事長は「色彩感覚などが素晴らしいデザイン。缶詰を企業に活用してもらいたい」と期待。だんだんボックス実行委員会の鶴飼哲矢副代表は「障害者の作品が世界に羽ばたく。他市にも広まれば」と願いを込める。

一万二千四百二十円。申し込みの締め切りは六月十三日、八月から配送する。